

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	教育総務部 教育財務課・地域教育支援課	令和6年度
記入団体名	川越igoまち倶楽部	

予算事業名	協働の推進	新規 ☐ 継続 ☒
-------	-------	--

協働事業名称	がくどうigoサポート&キャラバン事業		
協働事業の概要	市内32の小学校に併設された「学童保育」と3か所の「放課後子供教室」を対象とし、囲碁に親しみ、楽しく学ぶ環境整備をサポートする。囲碁の習得のみならず、囲碁が持つ力（思考力・集中力・忍耐力等）を活用し、子どもの人間力育成と多世代交流による安心できる居場所づくりを目指す。具体的な事業は以下のとおり。 ①キャラバン隊の講師・スタッフを対象とする教え方勉強会実施 ②学童保育支援員等を対象とした囲碁勉強会実施 ③学童保育・放課後子供教室への囲碁指導キャラバン隊派遣 ④アンケート調査による事業検証・実施報告書作成		
協働事業の決算額	373,087円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	185,000円
事業の実施期間	令和6年4月2日～令和7年2月20日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4.5	4	4.25
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4.5	4	4.25
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4.5	5	4.75
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	3.5	5	4.25
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4.5	5	4.75
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4.5	5	4.75

合計点数	31.5 点
------	--------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

（地域教育支援課）

協働事業として関わっていたが、地域ぐるみで子どもたちを育てるという趣旨については、共通するものがあるので、今後は違う形になっても連携、協力していけたらよいと感じた。

（教育財務課）

本年度も川越igoまち倶楽部さんの精力的な活動により、無事に全て終わることができました。

今年度も実施した学童保育室の支援員からは、夏季休業期間の酷暑のため外に出ることができない日が多い中、室内で行えるイベントとして有難かったとの声が多く挙がりました。また、初心者の子ども達へも丁寧なサポートを行っていただきました。

今年度で協働事業という形は終わりますが、次年度以降igoまち倶楽部は補助金等を活用し事業を続けられるよう検討しております。

協働事業として3年継続したことにより、学童保育室では恒例行事として定着しつつあるため、今後もさらなる発展があると考え、引き続き協力して事業を行っていきたいと考えます。

【市民活動団体等】

・3年目となり、長期休業期間中のプログラムの一つとして完全に定着しつつあると実感している。

・夏休み中のキャラバン隊は、猛暑の中シニア講師では負担が大きいため、囲碁に精通した大学生・高校生・中学生（キッズサポーター）および親子囲碁教室の保護者に声がけし、協力が得られたことは大きな力となった。特に、初めて星野学園囲碁部生徒にスタッフとして協力いただき、今後の連携にも期待できる感触を得た。

・9月には夏休み中にキャラバン隊を派遣した学童保育室を対象にアンケートを実施、結果をスタッフで共有するとともに、改善できる部分は改善するよう努めた。

・今年度で提案型協働事業としては終了となるが、引き続き、事業の根幹に据えたコンセプト「囲碁を通じ、子どもたちの未来を拓く！」～の視点を関係者と共有し、事業の継続実施に向け、実施方法・財源の確保等、検討していきたいと考える。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	8	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	2	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	A
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・文科省ではコミュニティスクールと言っていますが、様々な団体や地域が小中学校と関わることは児童・生徒の人格形成にとって大切なことと言えます。

・私は囲碁について全く知りませんでしたが、視察をしてみてルールが簡単でしかも思考が試される良いことであると考えさせられました。また、様々な人たちが係り多世代交流の場となっていました。今後とも事業継続をお願いしたい。

・ぜひ事業継続をしてもらいたい。市の協力を望みます。

・今年度で協働事業としては終了してしまうが、行政からも引き続き協力したい姿勢があることおよび成果も十二分にあることを考えると、提案型ではなく行政側からの委託での協働事業とすることを検討する価値があるのではないかと。

協働事業名称	がくどうigoサポート&キャラバン事業
--------	---------------------

【事業に関するコメント】

・（評価）項目4に関しての行政の評価理由について、「放課後子ども教室のスケジュールに合わせた」ということは逆にコミュニケーションがよかったからで“対等な立場”を十分に理解したからなのでは。

・担当課が今後も川越の子供たちのために継続できるよう尽力してほしい。

・高校生（星野学園高校）にも指導してもらうようになったのは素晴らしい。

・アンケート実施や報告書作成など事業、その後の成果まとめもきちんと行っており、川越の市民団体のモデルにもなっている。

・囲碁を教えるということだけではなく、その背景にあるものの見方や考え方を教えることがご苦労が多いと思います。頑張ってください。

・川越igoまち倶楽部さんの活動により多くの体験者も生まれました。初心者の方にもやさしく丁寧に指導され子どもたちも囲碁が好きになったと思います。地味な活動ですが今後とも続けていただければと思います。

・3年間の事業として確実な成果を上げ、また自主継続についての御意志が強いようで喜ばしいことともいます。（学生が広く参加したことも）ただし、行政側の低評価の理由がよくわかりません（市としては後ろ向きなのでは）。

・子どもたちの居場所作りの貢献にもなる。

・囲碁を楽しめる、楽しむことを目的の中心にしてできる。強いといった競争をあまり重視しないこうした取り組みは必要だと思う。

・放課後子ども教室や子どもサポート事業等への参加を希望する。

・事業として定着しつつあるようで、団体はじめ関係者の方々のご尽力に敬意を表します。協働事業としては今年度限りとのことですが、何らかの形で事業を継続していただけるのが望ましいと感じています。

特に今回、星野学園の生徒さんたちが参加してくださったとのことですが、このような年代・範囲の広がり、協働事業の一つのモデルとして成立するものだと感じました。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	産業観光部 農政課	令和6年度
記入団体名	仙波の田んぼ緑肥の会	

予算事業名	協働の推進	新規 ☐ 継続 ☒
-------	-------	--

協働事業名称	「仙波の田んぼで季節を感じ、食を味わう」農業振興事業		
協働事業の概要	農家と農家を応援するサポーター等で構成される、「小さくても密度の濃いコミュニティ」を形成するため、様々なイベントや農業体験、会報の発行などを行う。農家とサポーターの連携が深まることにより、農家の生産意欲向上を図ることができるとともに、「緑肥」作物の作付拡大による観光資源の提供を見込むことができる。		
協働事業の決算額	472,132円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	200,000円
事業の実施期間	令和6年4月1日～令和7年2月28日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	5	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	3	3

合計点数	29.5 点
------	--------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

昨年度と比較し、イベント内容がさらに充実しており、仙波の農家のモチベーション向上、消費者育成に貢献されており当課としても大変勉強になりました。
当課としては、「おいしい川越」インスタグラムで当団体の魅力を発信しました。
今回に限らず事業完了後も継続して発信を検討しております。
今後も、仙波の農業が盛り上がることを期待しております。

【市民活動団体等】

協働について、アドバイスばかり頂き、大変助かりました。
また、おいしい川越インスタグラムへの掲載によるPR効果が今後期待できます。
行政から更なる力をお借りできるように、更に大きな成果を達成して行きたいと感じました。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	3	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	7	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	B
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

- ・今回の提案型事業全般についてSNSで発信することは大切と考えます。この事業についてはマイクロコミュニティと言っていますが、少しずつ規模が拡大し、ぜひ農家への理解や地産地消について良く考える機会と思います。
- ・田植え体験や泥んこ遊びは子どもたちには大切で貴重な体験になったと思います。また、自分たちが植えた苗が成長し稲刈りをし、新米を試食。さぞおいしかったと思います。
- ・川越の農家を消費者が応援する形は大切にしてもらいたい。ファンが増えている。自給率も上がっていくとさらに放棄地が減るのでは。
- ・（評価項目の）1～6番まで評価が良いのに、いきなり7番の最終的な評価がお互いに3ということで低いのが気になります。
- ・全体として総合評価が” 3 ”であることが気になる（行政、団体ともに前向きに捉えているのに反している）。
- ・農家と消費者をつなげるととても良い取り組みなので継続してほしい。

協働事業名称

「仙波の田んぼで季節を感じ、食を味わう」農業振興事業

【事業に関するコメント】

- ・行政の自己評価”3”につての気になる点を知りたい。
- ・数値目標を掲げているやり方が素晴らしい。「新たな気づき」はすごい成果だと思う。
- ・マイクロコミュニティの可能性がある。
- ・少しずつ目標とする成果が出ているように思います。今後は組織の規模等、達成目標を明確にした取り組みを期待しています。
- ・あまり土に触れたことのない子ども達も農業の素晴らしさを体験を通して感じたことと思います。消費者育成に貢献されており、農業経営者が多く生まれることを期待しています。
- ・2年目にして、マイクロコミュニティといいながら少し広がった印象です。広く川越の市民やその家族を巻きこみ、子どもの育成や食の安全衛生や地産地消の効果が期待でき、さらに拡大継続を期待します。
また、行政側にも他の農家への展開を期待します。
- ・農家離れの時代に大切な事業。
- ・未だに支援者を増やす苦労がありそうだが、毎年の工夫には頭が下がります。頑張ってください。
- ・目標値を上回ったという点においては、一定の成功を収めたと考えていいのではないかと思います。今後は、団体の発信力を強化することも検討してもらえればと考えました。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	建設部 河川課 ・ 環境部 環境政策課	令和6年度
記入団体名	川越的場八景蟹ヶ渚再生する会	

予算事業名	協働の推進	新規 ☐ 継続 ☒
-------	-------	--

協働事業名称	川越的場八景蟹ヶ渚再生事業		
協働事業の概要	蟹ヶ渚は的場地内にありかつては湧水が下流域を潤し産業に貢献した。その後、草木は繁茂し人々が近づかないため、不法投棄により荒廃してしまった。 再生する会は、本市提案型協働事業の趣旨に従い、定期的に清掃活動を展開している。除草作業、花壇づくりのほか、渚北側の耕地化や水路周辺の遊歩道化を進める。事業計画に従い、定期清掃活動を実施。遊歩道整備のため木材チップをすきこむ。耕地整備のため耕耘し、腐葉土・肥料を施す。 情報誌を発行。市施設への備え付けを依頼。周辺自治会に回覧配布を依頼。 サツマイモ苗床を整備し、子ども会育成会、周辺住民と200本の苗さし、収穫を実施。		
協働事業の決算額	60,172円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	30,000円
事業の実施期間	令和6年4月1日～令和7年3月30日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	3	5	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	3	5	4
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	5	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	3	4	3.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	4	3.5

合計点数	27.5 点
------	--------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

提案団体が定期的に清掃活動等の維持管理を行っていただくことで、草刈業務に係る財政負担の軽減のみならず、河川環境の保全に寄与したものと考えています。

また、当該地が地域の方々の憩いの場となることで、地域コミュニティを深めることに大きく寄与する事業であったと考えています。

来年度以降も有意義な活動ができるよう、引き続き、行政財産使用許可申請書を提出していただくとともに、提案団体の活動を手助けしていきたいと考えています。

【市民活動団体等】

サツマイモ苗さし・収穫体験は、学校においても取り組まれている。身近な地域で周辺住民との交流が図られる点が、学校との相違点である。

今後は作業を一貫して、ともに実施する方々との連携が考えられる。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	2	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	7	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	B
C	1	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・古くは蟹ヶ渚から湧き出る湧き水を利用して農業をしていたこと、また昔は子どもの遊び場であったことがチラシからよくわかりました。そのような場所が荒れ、元に戻したいこと、よく理解できます。

・地域の育成会を巻き込みサツマイモ等の農業体験も行い、地域コミュニティが形成されていったことなど素晴らしくよく協働作業ができたと思います。今後は後継者を育て、今まで行ってきた作業等を引き継いでください。

・評価の差が気になるが、市民活動として地域に貢献しているのは評価する。子どもたちの安心して遊べる場所になってもらいたい。

協働事業名称	川越的場八景蟹ヶ渚再生事業
--------	---------------

【事業に関するコメント】

・当初の事業目的を十分に達成しているように見受けられる（地元自治体、子供会、育成会等の連携ができ、地域コミュニティの活性化が図られている）が、その割に、行政側の評価が低いように感じる。

提出された資料に掲載されていないところに何か問題があるのか。あるいは単に見方の厳しさが違うのか。知りたいとことである。

・行政の評価が“3”なのは気になる。反省点があれば知りたい。

・団体はよくやっていて、素晴らしい変化・美化ができています。Bとしたのは行政の協働の自己評価の低さが気になるため。

・協働事業で培ったノウハウを関連課題に取り組んでいる地域にぜひ展開していただけるよう期待しています。

・不法投棄により荒れ果てたところを皆様の努力により素晴らしい場所に生まれ変わり、地域の方々の憩いの場となり、周辺の住民の交流が図られることは大変素晴らしいと思います。これからも色々と企画してほしいと思います。

・自分達で地元環境を良くしていく取り組みであり、コミュニティ美化活動の手本となる事業であり、継続が大事だと思います。行政側もさらに支援する方法を検討していただきたい（サツマイモ苗など）。

・地域コミュニティ維持の役割を担う大切な活動である。

・若い人や子どもが更に参加できる工夫が大切だと思います。協働事業としての側面の重視。

・毎年度のことながら、地道な活動ではあるものの、行政との協働により一定の成果を挙げている事業であると認識しています。地域の課題をまずは自分たちの手で、時に行政の手を借りながら進めていく手法は、協働事業のあり方として一つの方向性を示すものになっているのではないかと考えます。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	市民部 地域づくり推進課	令和6年度
記入団体名	新宿町五丁目自治会	

予算事業名	協働の推進	新規 ☐ 継続 ☒
-------	-------	--

協働事業名称	新宿町五丁目 地域デジタル化		
協働事業の概要	新宿町五丁目内のICT化を図る目的で、複数年かけて、身近で必要なところから改革に取り組みます。自治会内にデジタル化特別委員会を置き、お知らせや回覧物等のデジタル配信、町内防災訓練でデジタル無線安否確認訓練、デジタル化状況調査と操作説明会を実施します。		
協働事業の決算額	290,204円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	145,000円
事業の実施期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	⑤

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	34.5 点
------	--------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

主に団体側が企画実行し、市側がアドバイスや情報提供等を行う形で役割分担し事業を実施してきました。互いに話をする機会を多く設け、信頼関係を築いて事業を実施できました。

関係性を築けたことで、市主催事業に協力していただいたりと本事業以外でも協働する機会がありました。また、他市町村等からの取材もあり、広く注目される事業となりました。

事業3年目を迎え、各種SNSの運営も安定し今後は自走されていくこととなりますが、引き続きこの関係を大切に、市として協力できる部分は協力していきたいと思えます。

【市民活動団体等】

地域デジタル化を自治会発案による事業として受け入れ協力していただき、非常にありがとうございました。継続3年目も概ね計画通り遂行しました。

複数年進める中で、新型コロナウイルス感染症流行による新しい生活様式やデジタル社会の進行を踏まえ、今後、地域がデジタル環境を使って取組むべき方向性が見えてきました。継続最終3年目は、これまでおこなってきたことを踏まえ、他地域でも取り入れ持続する仕組みをマニュアル化するように取り組みました。所轄課には今後も事業への情報提供や地域への好事例紹介等の支援を期待します。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	9	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	1	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	A
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

- ・新型コロナ禍の中でアナログからICT化へと考えての取り組み素晴らしいと思います。
- ・高齢者に対して講習会等大変苦労があったと思いますが、自治会活動の先進事例としてマニュアル化し、各自治会も取り組んでほしいと考えました。
- ・シニアや高校生との交流があり、デジタル化も進み、これからの自治会の在り様が変わると思う。
- ・自律した自治会、自立した自治会として他の目標となる。
- ・自治活動に関する協働事業の成功事例として評価できるのではないかな。

協働事業名称	新宿町五丁目 地域デジタル化
--------	----------------

【事業に関するコメント】

- ・提案型協働事業としては今年度で終了するが、その内容は継続的なものであり、常にアップデートしながら、先頭ランナーとしての役割を期待したい。
- ・他町への広がり期待されることです。その際にはSNS発信への手間や時間、人員など具体的な情報が必要です。先進的すぎて他町がついていけない可能性もあるので、ステップごとに丁寧に進めてほしい。
- ・アンケート作成、結果報告はとても参考になる。担当課も役立つと思う。
- ・デジタル化から取りこぼされる怖さを抱える市民もいるであろう。
- ・これからも地域の多様なニーズに対応できる仕組みや環境づくりに期待しています。大切なことは教えるではなく、興味や関心を持ってもらう仕組みづくりだと思います。
- ・地域デジタル化を企画され、活動を進められたことは大変素晴らしいと考えます。他の町にもデジタル化を伝えていただきたいと思います。
- ・スタート時は非常に難しいテーマだと思ったが、この3年間の団体の強い意志と努力で大きな成果につながったと思います。行政側には他自治会への波及、PRをお願いします。
- ・楽しく、必要な事業であると思う。まさに時代の流れに即した活動であり、続けてほしい。
- ・全市的な取り組みになり得るものを、地域からスタートさせたという点で、非常に大きな意義のある事業だと考えます。行政側としても、今後の取り組みの方向性を理解する上で意義深いものになっていたのではないかと推察します。
地域における課題を正確に取り上げ、解決に導くための枠組みづくりを、今後とも進めてもらえればと思います。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	市民部 地域づくり推進課	令和6年度
記入団体名	仲町青陵会	

予算事業名	協働の推進	新規 ☐ 継続 ☒
-------	-------	--

協働事業名称	仲町地域交流会活動事業		
協働事業の概要	仲町の子ども達・次世代へ自分の住む町の魅力を知る為の事業です。仲町とはどんな町か川越祭りに参加する町内とはどんな事を行っているかなど、地域を知るきっかけになり、地域の方と交流していくことで、世代を越えて交流を促す事業となります。仲町の町の中にはどんな人が住んでいるのか、どんな商売をしているお店があるのか、蔵の街とはどんな町なんだろうと子供たちが疑問に思っていることも、交流の中で答え合わせをしていく事を目的としています。 更に、今後新たなマンションの建設で新しい世帯が増えることも考えての交流会となります。この事業内容を今後は市内の次世代世帯への参加型交流事業にしたいと考えております。		
協働事業の決算額	131,005円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	50,000 円
事業の実施期間	令和6年8月14日～令和6年11月17日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平 均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	4	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	4	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	4	4

合計点数	30 点
------	------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

事業計画の段階から相談して事業を進めることができ、団体とのやり取りも円滑に行うことができました。昨年度の実業を踏まえて実施した川越祭りツアーは参加者にも好評でよいものになったと思います。来年度は仲町の山車が出る年のため、祭り当日の実施は難しくなりますが、時期等を検討して実施できるように団体と相談していきます。

所管課として交流会と川越祭りツアーに参加し、川越の歴史や自治会（祭り組織）の川越祭りとの関わりなどを知ることができました。

他自治会でも同様の悩み（自治会への加入や川越まつりへの勧誘等）を抱える自治会もあると考えますので、来年度はそのあたりも視野にいれ、3年目”仲町”に留まらない事業として実施できるように計画していきたいと考えております。

【市民活動団体等】

継続事業として行政と共に協働事業を出来ていて、新しいマンションの方にも行政と協働して事業をしてきているとの認識を与えられたことは、協働事業をやるメリットがありました。

継続事業として、新しいマンションとの交流をもっと図りたいとの意図で協働事業も進めてまいりましたが、マンション側の都合により自治体に参加しない方が多くいる事とマンション内に掲示物が貼れないなどのハードルがありましたが、各戸にポスティングして事業の内容や事業の実施日の告知などをしていき、少しずつ自治会のメンバーと交流をしてもらえるようになっていきます。

多くの参加者を募る事だけを考えるのではなく、地域の魅力を伝えていく事が大切だと分かりました、交流事業で行った内容を継続的に年に数回開催して参加してもらえる人を増やしたいと考えております。今後とも宜しくお願い致します。

来年度は事業の最終年として、ここまでの内容を仲町以外の地域に知ってもらえるような内容の事業にしたいと思います。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	7	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	3	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	A
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

- ・仲町ガイドブックの「川越まつり」は大変参考になりました。
- ・今後は地域交流会と並行して、新宿町五丁目の地域デジタル化を参考にしながら交流事業や川越まつりをSNSで発信してはどうでしょうか。
- ・川越の山車を大切にし、祭りを継続するためにも仲町の交流が必要とされている。マンションとの交流は難しいと思うが、続けてもらいたい。子ども達の参加を増やしてください。LINE活用は広がると思う。
- ・継続事業2年目ということで、昨年の反省を踏まえ、当初の目的が達成できたことは喜ばしいことです。

協働事業名称	仲町地域交流会活動事業
--------	-------------

【事業に関するコメント】

- ・個人的には川越祭りのガイドブックがコンパクトによくまとまっており、かつ持ち歩きにも便利な大きさになっており、素晴らしい道具であると思います。（予算オーバーしたのではないかと懸念はしますが）
- ・来年度は最終年ということで、他地域に波及することも念頭にあるようなので期待しています。
- ・同じような課題を抱える町内は多いと思う。
- ・自治会関連、川越祭り関連の団体にも担当課が広報で協力できるのではないか。
- ・夏場に参加したが、スタンプラリー形式で子供たちが飽きずに参加する工夫がされていた。
普段は見るのが難しい江戸時代の醤油蔵なども見学でき、町内の店舗への愛着が生まれたと思う。
- ・多様なニーズを取り込みイベントを開催するご苦労が想像できます。活動を継続し、その達成感を励みにして頑張ってください。
- ・隣近所の方と顔を合わせる機会が少なくなっている中、青陵会の方々がいろいろと企画され、交流の場を持って活動されていることは大変素晴らしいと思います。これからはいろいろと企画し、魅力ある町づくり頑張ってください。
- ・新加入の住民にとって、地元行事参加や地元住民との触れ合いは敷居の高いものだと思います。今回のような団体からの呼びかけは非常に有効だと思います。さらに自主的に実施できるよう検討してください。
- ・川越の変化に応じた1つの大切な事業だと思う。
- ・川越のコミュニティ維持・形成のために今後全市的に行う必要のある事業であると思う。継続してほしい。
- ・地域の課題をうまく取り入れた事業だと思います。また、行政のコメントにもあるように、全市的な課題も含まれているものと考えられますので、今後は行政の側で何ができるのか、アイデアを出し合ってもらえればと思います。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	防災危機管理室	令和6年度
記入団体名	株式会社小江戸FM	

予算事業名	協働の推進	新規 ☐ 継続 ☒
-------	-------	--

協働事業名称	コミュニティラジオで楽しく防災		
協働事業の概要	ラジオの特性を活かし、防災専門家によるラジオ講座やオシャレ防災グッズの紹介、非常食レシピの紹介など生活密着型の防災番組を放送することにより、楽しみながら幅広い年齢層の防災意識を高める。 事業の内容 令和6年9月：防災を遊んで学ぼう「あそぼうさい！まなぼうさい！」（クレアパークで実施） 令和6年10月：避難所における女性のプライバシー問題について（ラジオ放送） 令和6年11月：ペット防災について（ラジオ放送） 令和6年12月：防災ラジオについて（ラジオ放送）		
協働事業の決算額	415,600円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	200,000円
事業の実施期間	令和6年9月～令和6年12月		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	4	4.5

合計点数	31 点
------	------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

令和6年9月にクレアパークで実施された「あそぼうさい！まなぼうさい！」では、市内小中学校全クラスに事前にチラシを配布した効果もあり、親子連れで参加される方が多い印象を受けた。

また、避難所における女性のプライバシーやペット防災、また防災ラジオに関するラジオ放送を通して防災意識向上を図ることができ、「ラジオ」という情報入手手段の有効性を周知できたと考える。

【市民活動団体等】

今回が3回目で最後の事業となりました。

「あそぼうさい！まなぼうさい！」は今回が今までの中で一番内容が充実したと思います。また、防災番組では再放送を行ったことで、たくさんの方にお聴きいただき、防災について関心をもってくださいきっかけに繋げることができました。

災害はいつ、どこで起こるか、本当に分かりません。過去の災害では川越市も大きな被害があったと伺っています。市民の皆さんへ災害についてもっと関心をもってくださいという点では防災イベントは有効ですが、ラジオ川越主催では限界があります。他の自治体で開催している「防災フェア」を川越市の主導で開催するのは難しいでしょうか。ご検討をお願いいたします。

最後になりました。3年間という長い期間ではありますが、貴重な経験をいただき、心からお礼を申し上げます。川越の皆さんひとりひとりに寄り添うラジオとして、これからも川越の情報をお届けいたします。これからもどうぞ、よろしくお願いいたします。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	3	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	6	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	B
C	1	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・「あそぼうさい！まなぼうさい！」では多くの参加者があったとのこと、防災意識向上を図ることはできたと思いますが、ラジオという情報発信があることから実際に起きたことを想定して地震や水害の状況等をどのように発信するのかを考えていただきたい。

また、地震と水害に分けて避難場所や避難状況、道路状況等の状況を実際の想定を考えて、放送の伝達を考えてほしいものです。

・防災番組内容も時代に即している。また、市民との交流としてクレアパークでの「あそぼうさい！まなぼうさい！」の取り組みは今後も続けてもらいたい。

・今年初めてイベントに参加したが、子ども達のヤングママの参加が多かった印象であった。事前のPR及びイベント内容が過去の経験を踏まえて多彩であり、かつ、参加団体も消防署をはじめ、防災ラジオ・防災グッズ販売企業、情報機関も参加しており、当初の目的を達成できたのではないかと。

協働事業名称	コミュニティラジオで楽しく防災
--------	-----------------

【事業に関するコメント】

- ・防災に関するラジオ番組を再放送していたことも評価できる。
- ・今後も今回の経験を有効に活用して番組編成等に役立ててほしい。
- ・「ペット防災」「防災と女性」などテーマがアップデートされていて良い。民間との協働であるからこそその内容だと思う。
- ・「防災フェア」をウェスタ川越の広場などで行政がやってほしい。NTTとの取り組みもいい視点だった。
- ・イベントを通じ、楽しく防災を学ぶことも手段ですが、情報発信する側と受け取る側の思いをどのように見出し、共有し、解決していくかがポイントだと思います。
- ・川越市民の多くの方が災害について関心を示しています。今後とも川越の情報を続けていただきたいと思います。
- ・3年間の事業展開により、防災とラジオの役割が広まったと思います。全国各地のコミュニティラジオ局でも防災情報等是一个の柱となっており、協働の後ろ盾も継続を期待します。
- ・市民に向けた防災フェアは市が中心でやるべきではと考えます。ご検討ください。
- ・災害の時代になり、防災意識を高める事業はいろいろな形で必要とされていると思う。
- ・団体が指摘するように自治体の行っている防災事業や他の団体との連携は必然である。（より実践的な面で）
- ・川越市は特に災害の少ない地域で防災意識があまり高いとは言えないので、こうした事業は重要である。
- ・自治体としては非常に重要な事業である一方で、団体側からの指摘の通り、一メディアでは限界があることも確かだと思います。こうした取り組みをどのようにしてより大きなものに広げていくのか、行政の工夫が求められているものと考えます。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課	令和6年度
記入団体名	川越リージョナルウインドオーケストラ	

予算事業名	協働の推進	新規 ☒ 継続 ☐
-------	-------	--

協働事業名称	川越リージョナルウインドオーケストラ 特別演奏会		
協働事業の概要	・市民参加型の演奏会を通じ、参加者の学びと交流を深めながら川越の音楽文化向上と魅力あるまちづくりに貢献する。 ・様々な事情で既存の吹奏楽団への在籍が難しいながらも演奏機会を探し求めている潜在的なプレイヤーを発掘し、その機会を提供する。 日時：令和7年2月15日（土曜）16：00開演 場所：ウェスタ川越大ホール 入場料：1,000円 演奏者：川越リージョナルウインドオーケストラ（一般公募・大学推薦枠あり） 公演時間：1時間40分（休憩20分）		
協働事業の決算額	1,320,322円	補助金額 （※提案型補助金の場合）	200,000円
事業の実施期間	令和6年10月13日～令和7年2月15日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評価点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	34 点
------	------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今回の事業は、綿密な情報共有を行い、連携をとって事業の実施に向けて取り組むことができたと思います。演奏者として学生を含めた幅広い世代に参加いただけたことは、市民の芸術活動の活性化につながったと思います。今後も継続した活動を期待します。

【市民活動団体等】

協働事業として、それに相応しい取り組みが川越市とできたと思います。実際、楽団としては今回が設立初年で協働事業としての取り組みも初めてでした。団員の公募はまさに川越市との協働の試みで今回の演奏会の奏者は64名の大編成を組むことができました。さらには川越市の広報の紙面がきっかけで福祉事業団体から依頼演奏を受け、演奏で様々なハンディキャップをお持ちの人たちに音楽で楽しいクリスマスをお届けできました。そして今回2月開催の特別演奏会では公募で集まった市民の皆様の演奏で多くの人たちに音楽を通じ、人との協調や、個々の技術や、向上心がハーモニーとなったコンサートになりました。しかし、まだまだ至らぬ点は多く、もっと広報活動や、集客力へつなげるブランド力と演奏クオリティを上げていかなければなりません。そして何より大変なのが継続していく事だと思っています。川越から発信する音楽文化芸術などと大きなことを言っても、一度開催した程度では実際には微々たることで、大きな輪を築いていくには、失速せず継続していくことだと感じています。精神的エネルギーも物理的な労力も、時間も、膨大に必要です。今年度の事業としては終演しましたが、終わったというより設立2年目が始まったと考えたいと思います。気持ちを失わず、しっかり足元も整えて、前に進んでいきたいと思っています。協働事業に取り上げていただき心から感謝をし、引き続きご支援とご協力をいただきたくお願いいたします。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	7	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	3	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	A
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

- ・団員の公募で64名の大編成の吹奏楽団が出来たことはうれしいことです。福祉事業団体での演奏、楽しかったでしょうね。ウェスタ川越でのコンサート楽しみにしています。来年、ウィーン学友協会ホールでの演奏会はどうするのでしょうか。
- ・コロナ前には旧市民会館やウェスタ川越で10年程ジャズフェスティバルが行われていましたが、コロナ禍で消滅してしまい、音楽文化はどうなってしまうか不安でしたが、このような楽団が誕生し、うれしいかぎりです。
- ・今後は継続をどうするのか、具体的な目標をもって活動してほしいものです。

協働事業名称	川越リージョナルウインドオーケストラ 特別演奏会
--------	--------------------------

【事業に関するコメント】

- ・前向きな素晴らしい事業だと思います。しかしながら資金的な面は大丈夫でしょうか、演奏会は大成功だと思いますが、継続できるよう期待しております。
- ・資料を見る限り、当初の目的以上の成果をあげられたようですね。（当初予定していなかった福祉事業団から演奏の依頼があったとか）
- ・2月15日の特別演奏会が楽しみです。そして来年度へのステップアップのきっかけになることを期待します。
- ・公募で60名以上の参加は、いかに受け皿を欲していたかの証拠である。トライしてくれた代表の実行力に感謝します。
- ・楽器会社とのコラボ実現は素晴らしい。協賛金を得るだけではなく、アイデア・手腕は他団体への参考になる。
- ・非常に興味深い事業だと思いますが、どのようにして「まちづくり」に貢献していくのか、芸術文化をどのように拡大していくのか、市民参加の在り方の工夫が重要だと思います。
- ・オーケストラの演奏を聞くことが少ない中、川越から発信する音楽の文化芸術を今後とも続けていただきたいと思います。
- ・初めての取り組みだが、公募や大学連携などうまく回ってきたと感じます。よき土台が出来たと思うので、市民演奏者のクオリティ向上をはかり、川越市民発をPR出来るよう期待します。
- ・川越が音楽が聞ける町を目指すようで提案には共感できる。楽器に触れる機会は楽器ができないから音楽を聞かないという人もいるのでよい工夫だと思う。
- ・多くの市民に対し音楽という文化を届けることができた点については評価できると思います。
今後の課題としては、継続的によりレベルの高いものを届続けることができるかどうかではないでしょうか。ともすれば協働事業は、単発のイベント活動と混同されがちですが、その趣旨は地域にとってより質の高い生活を提供することにあるわけですから、継続性を持たせていくことが今後は重要だと考えていただきたいと思います。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	こども未来部 こども育成課	令和6年度
記入団体名	川越にプレーパークをつくろうの会	

予算事業名	協働の推進	新規 ☒ 継続 ☐
-------	-------	--

協働事業名称	川越にプレーパークをつくろう事業		
協働事業の概要	座学と現場実習を組み合わせた連続講座を開催し、講座参加者がプレーパークの活動方針や運営方法、地域での子供の見守り方を学び、将来的に本団体の活動にプレーワーカーとして参画することを目的とした事業。 第1回 10月24日 こどもにとっての遊びの大切さ 冒険遊び場(プレーパーク)とは 第2回 10月31日 プレーパークの環境づくり 危険管理 第3回 11月21日 危機管理と応急手当て実習 第4回 11月30日 プレーパークをやってみよう! 会場：第1回・第2回はすすくかわごえ、第3回・第4回はこどもの城の広場		
協働事業の決算額	160,753円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	78,000円
事業の実施期間	令和6年10月24日～令和6年11月30日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	⑦

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評価点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	4	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	4	4

合計点数	28.5 点
------	--------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

どれだけ参加者が集まるか分からない部分があったが、10名の参加者が集まり、3名が皆勤賞となった。6～7の補足でも書いたが、潜在的にプレーパークに興味のある市民がいることが改めて分かった。次年度はそういった層の掘り起こしを行い、受講者が増えることを期待している。

また、団体に対しては、将来的に主体となって動いてもらいたいと主管課として考えているので、市主催のプレーパークに協力してもらい、研鑽を重ねて行ってもらいたい。

【市民活動団体等】

講座参加者たちの士気が高く、今後の活動参加に意欲的であった。座学と現場実習を組み合わせ、最終回で講座参加者が実際にプレーパークを運営したことが、今後の活動参加への意識向上につながったと感じた。

事業目的であった講座参加者プレーワーカー・スタッフとしての参画は、まだ事業後にプレーパークを開催していないが、達成できると考えている。

所管課との協働について、広報活動や会場手配など、多くの所管課からのサポートを受けることができた。所管課からの期待に応えるべく、次年度以降よりよい事業を実施していきたい。

次年度も同様の事業を実施し、今回参加を見送った人が講座に参加できるよう、早めに日程等概要を決めて告知したい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	3	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	6	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	B
C	1	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・失礼ながらプレーパークという言葉を知りませんでした。昔の子どもの遊び場とも違うようです。紙面だけではプレーパークの具体的な様子が見えてきません。外部講師謝金として131,120円計上されていますが、講師は何人だったのでしょうか。

・市のプレーパークよりも人が集まるということで今後も市と協力して子どもの育成に力を注いでもらいたい。

・資金額は大丈夫か。プレーワーカーの育成はどうか。頑張ってもらいたい。

・今回得た知見をブラッシュアップし、より良い協働事業として実施され、当初目的に合致した成果を得ることを期待します。

・動画の紹介がよかった。プレーパークのイメージのないシニアの人にも理解が広がる。

・主体的に行動する市民の受け皿として広がってゆけるのではないかな。

協働事業名称	川越にプレーパークをつくろう事業
--------	------------------

【事業に関するコメント】

・行政が新しい事業を行っていく上で、この提案事業を活用してほしいと思う。職員研修として相応しいモデルである。

・子ども自身が遊びを生み出すだけでなく、子供たちが遊び空間を作り変えていく事が最終的な目標だと思います。子どもの興味・関心を最大限に受け止める仕組みづくりを期待しています。

・子どもたちは家に閉じこもり、携帯・テレビ等を見て家で過ごすことが多い中、子どもたちを外に呼び戻し遊べる機会を作してほしいと思います。子どもの城の裏は遊びに適していると思います。

・本年度は4回の講座開催でスタートでしたが、今後の計画通り、実践されることを期待します。

・今後は常設のハード部分（場所・道具等）は行政、運営は団体が行うなど、やり口を固めていってください。

・川越には公園等、子どもの居場所、遊ぶ場所が少ないと言われているので当然の提案だと思うが頑張してほしい。

・とりあえずは事業が成功裏に終わったことはよかったと思います。ただ、娯楽が多様化している中であって、今後こういったプレイパークという考え方を広めていく上では、ハードルがいくつかあるのではないかと考えられます。

まず、根本的にプレイパークという考え方そのものが浸透していないこと、またそのターゲットをどのような層にするのかという点も、実際に事業を進めていく上では必要だと思います。

協働事業ですから市民と行政との関係ばかりを見がちですが、事業として成功させるためには、マーケティング的なものも意識する必要があるのではないのでしょうか。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	学校教育部 教育指導課	令和6年度
記入団体名	テレジンを語りつぐ会in川越	

予算事業名	協働の推進	新規 ☒ 継続 ☐
-------	-------	--

協働事業名称	生きる力と平和の大切さについて共に考える授業		
協働事業の概要	野村路子さんの30年以上の取材の体験やホロコーストで犠牲になった同年齢の子どもたちの話などを聞き、命の大切さや平和の尊さについて考え、生きる力を育むための小学校・中学校訪問授業を行う。 1 小中学生を対象に訪問授業を12月～2月に実施（講師：野村路子） ・小学校（中央小、仙波小（5年）、仙波小、上戸小、寺尾小、広谷小（6年）） ・中学校1校（霞ヶ関西中1年） 2 訪問授業校へ図書を贈呈 3 中央図書館にて展示及び講演、上映会を実施（11月4日～10日、延べ500人弱） ・展示「アンネ・テレジン・ホロコースト展～ノンフィクション作家 野村路子の世界～」 ・講演「15000人のアンネ・フランクがいた」（11月10日 講師：野村路子）		
協働事業の決算額	333,814円	補助金額 （※提案型補助金の場合）	166,000円
事業の実施期間	令和6年6月～令和7年2月7日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評価点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	33 点
------	------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

テレジンの会の皆さんの精力的な活動により、小・中学校で計7回の訪問授業を実施することができ、中央図書館での展示及び講演も滞りなく実施することができ、児童生徒が命や平和について考える貴重な機会となったと考えています。また、日々の指導を行う教員にとっても、改めて命や平和、人権などについて考える機会となり、指導力の向上にも資する取組であると感じました。

訪問授業までに、テレジンの会の事務局が学校とていねいに事前の打合せを行っていただき、当日の訪問授業を円滑に進めることができていました。

次年度は、本年度の訪問授業の様子を校長会等で周知していくことで、訪問を希望する学校が増加すると考えている。年度当初から訪問授業を計画的に実施していきたい。

また、中央図書館での展示及び講演も、訪問授業との相乗効果があると考えている。次年度も協力し、実施していきたいと考えています。

今後も、テレジンの会と協働し、児童生徒が命や平和について考える機会を設けることで生きる力を育むことができるよう進めてまいりたいです。

【市民活動団体等】

協働事業ということで、市立中央図書館の展示室と視聴覚ホールをお借りして、展示会と講演会を実施することができました。テレジン収容所の中で描かれた絵の作者は10歳から15歳の子どもたちです。同年齢の子どもたちにも図書館に来てほしいと学校にチラシを配布しました。来場者は500人弱でしたが、子どもたちの姿はあまり見られませんでした。野村路子さんの業績についても、もっと多くの方々に知っていただきたいと思っています。

訪問授業については、各学校の先生方はお忙しい中、熱心に対応してくださり、事前の話し合いにも十分に時間をとっていただきました。これというのも、教育指導課が授業実施までの詳しい手立てを各校や私たちに示してくださったお陰と感謝しています。児童生徒も集中して授業に臨み、野村さんの話に耳を傾け、時間の許す範囲でグループ活動・質問・感想発表を行いました。野村さんの話に感動し、自分の生き方を考えたいという感想もありました。授業を受けた約700人の児童生徒がこれを契機に命の尊さや平和について考え続け、今後の展示会等に来てさらに考えを深めてくれるよう期待しています。

来年度も小中学校への「訪問授業」を続けていきたいと思っています。忙しい業務の中で本事業の目的達成のために支援してくださった教育指導課に深謝するとともに、今後ともご協力とご指導をよろしくお願いいたします。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	7	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	3	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	A
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・最近ニュースや新聞で戦争や動乱や暴投などを目にしない日はありません。そういう中で訪問事業を行い、児童・生徒がどのように感じたのか、アンケート等があれば読みたい。また、このような平和についての話はいじめや虐待などの行為が減るのではないかな。

・行政と団体の事前の打ち合わせや準備がよい結果を生んでいる。学校・図書館・団体の連携がよかった。これからも訪問事業をしてもらいたい。

・協働事業の利点を十分に発揮し、「命と平和」の大切さを考える機会をより多くの人に知らせる活動に期待しています。

協働事業名称	生きる力と平和の大切さについて共に考える授業
--------	------------------------

【事業に関するコメント】

- ・学校での訪問授業、児童との交流が素晴らしい。
- ・ITを活用して家庭でも絵画を見られるようにしたことは素晴らしい。
- ・学校の先生からの実施してよかったという声、野村先生は川越の宝物でもあると思うので行政は大切にしてほしい。
- ・「いのちの教育」「人権の教育」「平和の教育」等は極めて大切な教育だと思いますが、本来の学校教育の分野とどのように連携していくのか考える必要があると思います。
- ・小中学校への「訪問授業」を続けて命の尊さや平和について子どもたちと考えていただきたい。（小学生が自殺する現実には胸が痛くなります。）
- ・訪問授業の効果が絶大（若い時に大きな刺激を得られる）なので、出来るだけ年間の計画を早めに市／団体間で調整し、全校くまなく訪問できるようお願いします。
- ・今だから評価されるが、どうつないでいくかが、やはり課題になると思われる。今後も総合的な学習の時間等で取り上げてほしい。
- ・平和教育という視点からすると、本事業の意義は非常に大きいものであると思われます。
行政においては、よりアンテナを高くして、平和教育に結びつく様々な視点を持つようにしてもらえればと思います。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	広報室	令和6年度
記入団体名	川越が生んだ漫画家・花村えい子の推しガール総選挙実行委員会	

予算事業名	協働の推進	新規 ☒ 継続 ☐
-------	-------	--

協働事業名称	川越が生んだ漫画家・花村えい子の推しガール総選挙		
協働事業の概要	川越に住んでいる方々、観光で訪れる方々が川越市出身の漫画家・花村えい子氏が生み出したキャラクター16人の中から、市内施設及びwebサイトで投票を行い、一番人気のキャラクターを決定する。 結果は「ほの香」が1位となり、川越をアピールするキャラクター「小江戸川越ほの香」として、川越で商売を営む方や活動されている方に許可制でイラストが無償提供され、川越のブランディングと名産品を世界へプロモーションする。		
協働事業の決算額	398,889円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	199,000円
事業の実施期間	令和6年6月1日～令和6年12月15日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	⑦

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	31.5 点
------	--------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

川越が生んだ漫画家・花村えい子の推しガール総選挙実行委員会の皆さまのお力、充実した広報活動により、投票数が約1万6千票を超え、多くの方に川越をアピールする機会になったと思います。

【市民活動団体等】

- ・広報室と協働事業したことにより、投票ボードやポスターを公共の場に設置、広報「かわごえ」での記事掲載で周知が広がり、広報活動が円滑に進んだ。観光客だけでなくたくさんの川越市民にも参加してもらえた。
- ・埼玉新聞、NHK、毎日新聞、朝日新聞、川越経済新聞などのメディアにも取り上げられ、川越市以外でもニュースになった。
- ・予想の1万票の163%、16387票を集め「小江戸川越ほの香」ちゃんが誕生、すでに10箇所以上で使われている。川越市では名刺やARイベント等でも活躍。今後も末長く愛されていくように工夫したい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	2	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	8	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	B
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・花村えい子さんを知りませんでした。しかも川越出身であるとは。16000票もの方が投票したとのこと、広報室との協働がうまくいった証拠だと思われます。

・メディアに取り上げられたのは川越の良い宣伝になって大変にうれしく思います。

・「小江戸川越ほの香」ちゃんが既に10箇所以上で使われていると書いてありますが、具体的に教えてほしいです。

・今後、「小江戸川越ほの香」ちゃんが色褪せず使用されるにはどうしたら良いか実施団体は考えてください。

・投票数も多く、皆さまが参加したので市民に推しガール（ほの香）も浸透したと思う。

・月1回、実際に会っての市との打ち合わせが良い結果を生んだと思う。

・予想を上回る成果を得られたことは協働事業の成しえることと評価します。さて、今後はどのような事業内容となるのか興味がつきません。今回の成果から発展された事業内容が出てくることを期待します。

協働事業名称	川越が生んだ漫画家・花村えい子の推しガール総選挙
--------	--------------------------

【事業に関するコメント】

- ・担当課を「広報室」としたこともよかったのではないかな。
- ・リンクス川越（障がい者支援）とコラボできたことも素晴らしい。
- ・今後、広報室がどのように広めていくのか楽しみにしています。
- ・推しガール総選挙を通じ川越のまちがどのように変わったのか、今後どのように変えていきたいのか。検証しつつビジョンを明確にすることが大切だと思います。
- ・新聞等に取り上げられ、川越市以外にもニュースになったとのこと。今後とも新しい企画を計画、工夫をしていただきたいと思います。
- ・街中やメディア等での露出があり、思った以上の反響があり良かったと思います。今現在で多くの場所で使われだしていますが、今後失速しないよういろいろな対策をお願いします。
- ・川越をアピールする目的で子ども達に夢を与えるものとして評価できる。
- ・ともすればあまり認知されることもなく進む可能性もあった中、団体・行政双方の頑張りによって、一つの事業としてまとめることができたのではないかと思います。
行政の側としてはなかなか難しいところもあったかもしれませんが、そういった市民側からの要求をふまえ、今後もアンテナを高く張ることを心がけていただければと考えます。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	教育総務部 中央図書館	令和6年度
記入団体名	學のまちkawagoe実行委員会	

予算事業名	協働の推進	新規 ☒ 継続 ☐
-------	-------	--

協働事業名称	ほしおさなえ作品の世界をめぐるスタンプラリー		
協働事業の概要	作家ほしおさなえ先生の作品で主に川越を舞台にした作品で、実在するスポットなどをスタンプラリーで巡り、作品を通して地域文化、また本や文学に触れる機会を創出します。 ①スタンプラリー（10/26～11/10：7カ所、引き換え（ノベルティ冊子）400名） ②11/2ほしおさなえ講演会（りそなコエドテラスにて食事付き、29名参加） ③11/2活版印刷WS（文星舎にて開催、29名参加） ④十文字学園女子大学・新嶋ゼミ学生による活版印刷しおりの作成・配布 ⑤広報としてチラシ・ポスター配布及びコエドノコトペーパーの広域配布を実施 ⑥川越市立図書館にて関連書籍（56冊）および活字や説明パネルの展示		
協働事業の決算額	616,256円	補助金額 （※提案型補助金の場合）	200,000円
事業の実施期間	令和6年10月26日～令和6年12月20日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評価点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	3	4	3.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	3	4	3.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	3	4	3.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	3	4	3.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	3	4	3.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	4	4

合計点数	25.5 点
------	--------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

作品で紹介されたスポットについて実際にスタンプラリーで巡るという企画について、事前に配布していたスタンプラリーの台紙が一時的に不足する程多数の参加があり、作品の世界及び川越について広く周知をすることができ、結果として、実行委員会と図書館と相互にとって大きな効果を得ることができた。

図書館としても、作品で紹介された場所をスタンプラリーで巡る、という企画は今までなかったものであり、今後図書館の事業について計画する上で、地域資料の紹介する企画を検討する際には本事業を参考にすることで、地域の活性化に繋げていきたいと感じた。

【市民活動団体等】

今後も歴史や文化を中心とした川越にずっと残っている魅力を伝えられる企画を実施したいと思った。また若い世代（小学生など）も気軽に参加できる内容も今後検討したいと考えている。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	1	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	9	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	B
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・ワークショップで実際に活版印刷を行ったのですが、それこそ手作業で楽しかったです。最終回で男性は私一人で他の7名は女性でしたが楽しそうに行っていました。子どもも多く参加していたと聞きました。また、活字はポイントごとに活字があり、印刷には相当苦労したろうと感じました。活字はひとつの会社で作ったものではないと、混ぜて使うことができないと知りびっくりしました。活版印刷で名刺を作ってもらおうと考えています。最後になってほしお先生が見えて少しお話をする機会を得ました。

・川越をスタンプラリーで紹介する企画はとても素晴らしい。ノベルティ冊子を作ったり、映画上映もあり、大学とのタイアップがあったりと手の込んだ協働であった。資金が大変ではないかと感じた。

・記述内容に対して評価点が相対的に低いように感じた。特に行政側の中央図書館という初めてのケースで多少の戸惑い、遠慮があったためか。

・スタンプラリーのスタンプ設置場所がわかりずらい箇所があった。（店舗の協力を頼っているので仕方ないのか）検討の余地あり。

協働事業名称	ほしおさなえ作品の世界をめぐるスタンプラリー
--------	------------------------

【事業に関するコメント】

- ・スタンプラリーのノベルティは工夫されて大変よかった。
- ・ディープな川越を文化・歴史・観光で知ってもらうには、この手法が活用できるのではないかと（その面で他の部局（Ex.観光課・都市景観課等）と連携した協働事業のあり方について検討する価値があると思えるが）
- ・本に接するよい機会となったのではないかと。地元の個人書店がスタンプラリーの場所になったらよりよかったと思う。
- ・大学とのコラボも評価できます。
- ・活版印刷のワークショップは継続してほしい。
- ・図書館とのコラボはいろんな可能性があり、文化を発信する場所としてもっと他団体ともコラボしてほしい。
- ・スタンプラリーで巡ることにより、どのように地域文化の振興に貢献していくのか、できるのか、一歩踏み込んだ協働事業としての具体策が必要だと思います。
- ・文化を中心とした川越にずっと残っている魅力を伝えられる企画を実施していただきたいと思います。
- ・スタンプラリーの期間が短かった割には400名引き換えという成果は大きかったと思います。
- ・文学作品や印刷等を利用し川越をPRする手法は今後も活用出来ると思うので、うまく発掘し、事業継続をお願いします。
- ・楽しく、著書に触れることができることが評価できると思う。印刷からのアプローチもおもしろいが、課題も多い。
- ・スタンプラリーという形式をとったことで、比較的多くの人に認識してもらえたのではないかと思います。その点はよかったのではないのでしょうか。
あえて指摘するのであれば、この事業そのものがどういった意味を持つものであるのかについて、行政と団体との間でじっくりと話し合っていく必要があるのではないかと感じました。